# 第9講

社会科学系(2)

# 市民が担う責任

チャプター1

## 資料読解

生徒メモ欄

次の文章は，哲学者の鷲田清一さんが，中学生に向けて書いた「『賢くある』ということ」という文章の一部です。

1　近代社会は，一八世紀のフランス革命から始まったと言われているが，簡単に言うとここにいる皆さん〔略〕すべてが同じ「一」である，ということなのだ。あらゆる人は「一」であって，それ以上でもそれ以下でもない。一番わかりやすい例は，投票の構造だ。総理大臣も一票だしフリーターも一票。人はすべて同じだ，という捉え方をする。

2　しかし，近代社会が成立するまでは，全員が「一」ではない，現代からすればいわば不平等な社会だった。身分制度があったので，生まれたとき既に人生の軌道が描かれていた。どの階層に生まれるかによって職業はほぼ自動的に決まったし，家庭をつくるにしても，相手は自分と同じ階層で周辺の地域に住んでいる人に限られた。つまり自分の生涯のかたちはおおよそ見えていたのだ。自分で自由に職業やパートナーを選ぶなど考えられない世の中だったから，わざわざ自分の存在する理由を問う必要もなかった。その社会を，その共同体を，その家族を維持するためには，その人がいなければならない。あらかじめ役割が与えられて生まれてきたから，自らの役割を果たすことが人生の目的だったのだ。

3　ところが，近代社会は「生まれ」，つまり階層，地域，言葉，性別，といった本人が選びようのない条件は全て無視しようという考えを基本に成り立っている。生まれは関係なく，みんな同じスタートラインに立ち，同じ条件で勉強を始め，

平等に扱われる。その代わりあとは自分で選びなさい，と放り出される社会だ。そうするとどうなるか。今ある自分は自らが選択した結果なのだからすべて自分の責任だ，ということになる。

4　近代社会は理念として全員が同じ重さだという思想に基づいている。ほんとうに全員が一票を持つことができたのは二〇世紀に入ってからであるし，いまだに差別はなくなっていないが，この理念を守り続けようとしている。

5　確かにたいせつな考え方だが，だれもが，自分はどういう存在でありそれを意味のあるものとして肯定できるか，という問いに向き合わざるをえない。近代社会は，ものすごく重いことを一人ひとりに要求しているのだ。

6　そんな大きい責任を課せられている今の時代であるにもかかわらず，若い人に限らず，すべての世代が，どんどん無力になっていると私は感じている。大げさな言い方だと思うかもしれないが，では，この中に，お産のときに赤ちゃんを取り上げることができる人はいるだろうか。おそらく皆無だろう。へその緒はどの辺りで切るか，とか，産声を上げさせるにはどうすればいいかとか，まったく知らないはずだ。昔は，こういった事は女性であれば全部できたのだ。〔略〕

7　出産，調理，排泄物の処理，治療，看護，教育，子育て，交渉など，生きるうえで欠かせない事柄を，私たちは知らないうちにすべて，他人に任せるようになった。少しでも安心で安全に暮らせるように，とそれぞれの「プロ」を育ててきたのだ。普段の生活のことは行政やサービス会社に任せておけば安心，安全だし，病気になればしっかりとした治療を受けられる。子どもは学校で勉強するようになったし，めんどうなもめ事は弁護士に頼めば損はない。排泄物はペダルを踏むだけできれいになるし，介護が必要なら電話をすればいい。

8　生活のあらゆる面でそれぞれのプロがいるから，なんの不安もないし健康でいられる。寿命が延びたことからうかがえるように，プロを育てたことは社会にとって間違いなくプラスになった。ただ，プラスは必ずマイナスを含んでいるもので，プラスの分何を失ったかというと，われわれ自身の能力だ。一人では何もできない無能，disableの状態になってしまった。

9　そんな私たちが今の社会でできること，それはクレームをつけることだけ。行政にも会社にも，少しでも不満があれば文句を言う。これだけは自信を持ってできる。なぜか？お金を払っている，義務を果たしている，と主張できるから

生徒メモ欄

生徒メモ欄

だ。払った金額に見合うサービスを受けるべきで，かなわなければ文句を言えばいい。しかもそれを当然のように言う。皆さんも，授業がつまらなかったり成績が下がったときに，ちゃんと授業料を払っているのにこの頃の先生はサービスが低下している，などと言っていなければよいのだが……。

⑩　近代社会は，全員が責任を持った「一」である市民社会をつくろうとしていたはずなのに，結局私たちは「市民」ではなく「顧客」になってしまった。市民とは，自分たちの大事な問題は自分で判断し自ら担う主体を意味する。私たちは，自分たちの安心と安全のためにプロを育て，「委託」するという道を開拓してきた。しかしその制度の中で暮らすうちに，自分が持つ技や能力を磨くことを忘れてしまった。自分で物事を決めて担うことができる市民ではなくなり，ただのサービスの顧客に成り下がったのだ。

（法政大学　キャリアデザイン学部　2021　一部の問いのみ抜粋）

生徒メモ欄

教員記入欄

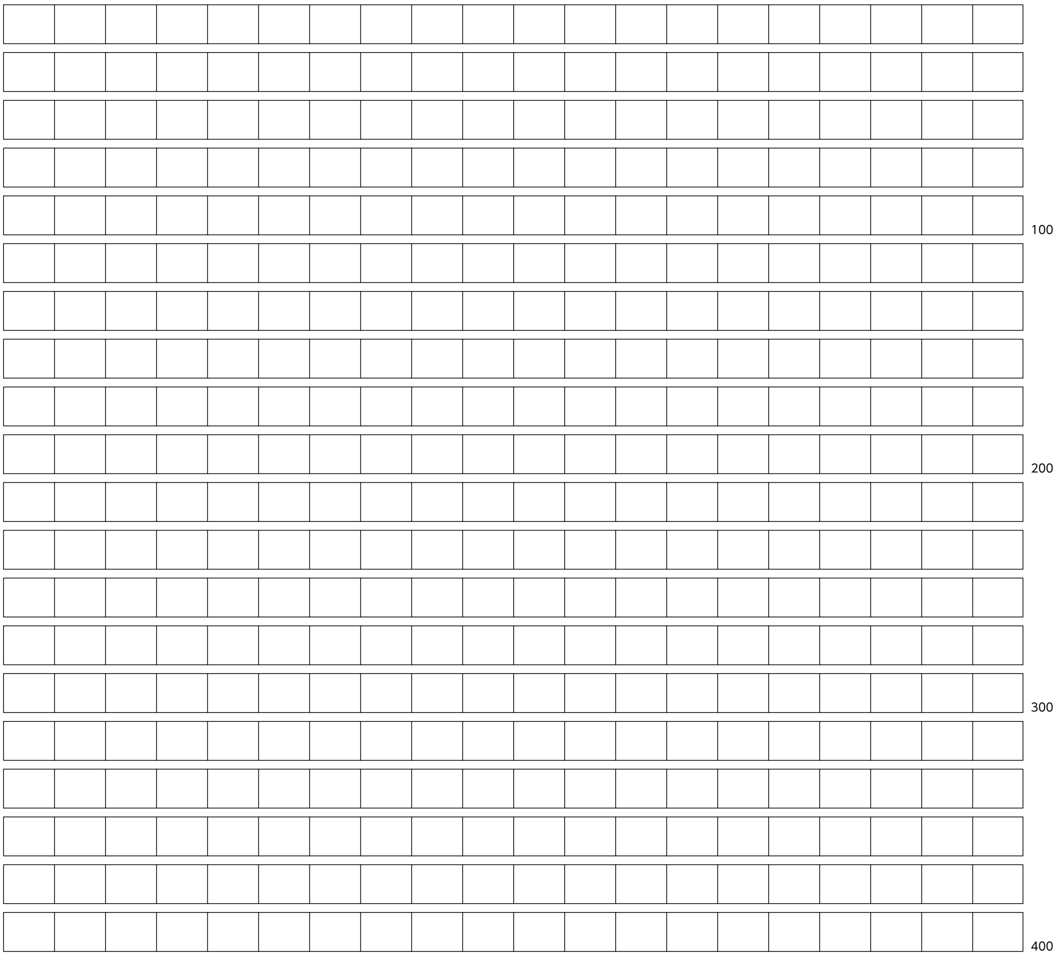
チャプター2

# 問題およびヒント

問題を見てみよう

「サービスの顧客に成り下がった」一人とされるあなた自身が，これからの社会で果たせる具体的な役割と責任はなんですか。そう考えた理由も合わせて，500文字以内で述べなさい。（句読点文字数に含む。）

解答案をつくってみよう



500

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

## 自己評価表

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

| 観点 | 項目 | 評価 |
|---|---|---|
| 設問の理解 | 出題の意図および背景の理解 | S A B C F |
| 意見（主張） | 設問と意見との関係 | S A B C F |
| | 独自性・独創性・発展性 | S A B C F |
| 理由（根拠） | 事実に基づいた論証 | S A B C F |
| | 重要性・問題性 | S A B C F |
| 論理性・簡潔性 | 適切な論理展開 | S A B C F |
| | 簡潔な記述 | S A B C F |
| 表記・表現 | 誤字・脱字 | S A B C F |
| | 段落の設定 | S A B C F |
| | 制限字数 | S A B C F |
| | 文体の統一 | S A B C F |
| | 表現技法 | S A B C F |

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

# 答案例①

　筆者は、近代社会の成立により万人は出自に関係なく人生を選択できるようになったが、一方であらゆる面において「プロ」を育て委託するようになったことから、私たちは消費者いう立場でしか社会に介入することのできない「一顧客」になり下がってしまったと述べている。たしかに、近代社会は資本主義社会であり、自己の責任において自己の利益を追求することを促されるため、自分の利益に直接関係のないものを軽視する傾向がある。

　しかし、私たちが暮らす現代社会は高度な技術や仕組みによって支えられており、筆者が言う「近代社会以前の人間は誰でも持っていた能力」だけではここまでの豊かさを実現することはできなかったであろう。私たちに求められている具体的な役割と責任は、社会の一構成員として各人が得意分野のプロとして役割を果たすことと、お互いの仕事が正しい理念のもとで正しく行われているか監視し合うことではないだろうか。ここで言う監視は、消費を前提とした個人の好みに基づくものではなく、社会的に正しいかという公共性を重視した視点に基づきなされる必要がある。こうした視点が私たちを一消費者でなく一市民とさせているのだと考える。

(494字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
| 設問の理解 | 出題の意図および背景の理解 | S A B C F |
| 意見(主張) | 設問と意見との関係 | S A B C F |
| | 独自性・独創性・発展性 | S A B C F |
| 理由(根拠) | 事実に基づいた論証 | S A B C F |
| | 重要性・問題性 | S A B C F |
| 論理性・簡潔性 | 適切な論理展開 | S A B C F |
| | 簡潔な記述 | S A B C F |
| 表記・表現 | 誤字・脱字 | S A B C F |
| | 段落の設定 | S A B C F |
| | 制限字数 | S A B C F |
| | 文体の統一 | S A B C F |
| | 表現技法 | S A B C F |

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

# 答案例②

　全員が責任を持った「一」である市民社会であるためには、あらゆる問題に対し他人事ではなく自分事として捉え、判断し自ら担うという意識を持つことが大切になってくる。

　もちろん、各分野のプロを活用することは、自分自身で何もかも行うより、効率的で効果的である。しかし、インターネットでも調べてみると分かる通り、その各分野のプロも様様であり、その選択基準などをどのように考えるのかということになる。ゆえに、何も知らずして決定することは難しいと考える。現代は、情報があふれている。その中から最適な選択を行うためには、おのずと自らの技や能力を磨くことが必須となってくるのではないだろうか。それが、自分の選択に責任を持つということにつながると考える。

　将来自分自身が、ある分野のプロになったとしても同様、他の分野に対して無関心ではいられないだろう。各分野は関連しているのである。いかし、いかされることで、物事は成し遂げられると考える。一市民である以上、主体的に社会に貢献するという意識の下、働きかけていく必要がある。そして、各分野のプロがいかされる連携こそが良い循環となり、より良い社会作りへとつながるだろう。

(498字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
| 設問の理解 | 出題の意図および背景の理解 | S A B C F |
| 意見(主張) | 設問と意見との関係 | S A B C F |
| | 独自性・独創性・発展性 | S A B C F |
| 理由(根拠) | 事実に基づいた論証 | S A B C F |
| | 重要性・問題性 | S A B C F |
| 論理性・簡潔性 | 適切な論理展開 | S A B C F |
| | 簡潔な記述 | S A B C F |
| 表記・表現 | 誤字・脱字 | S A B C F |
| | 段落の設定 | S A B C F |
| | 制限字数 | S A B C F |
| | 文体の統一 | S A B C F |
| | 表現技法 | S A B C F |

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

# レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄